

(呼吸器外科)

【3年コース】

1. 診療科（専門領域）

呼吸器外科

2. 研修期間

3年間

3. 募集人数

2名

4. 短期目標

呼吸器外科疾患の診断を的確に行い、適切な術式の選択、化学療法を含む治療法の選択を行い、遂行する。

5. 短期取得手技

気管支鏡、胸腔ドレナージ、気管切開、開胸術

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 2012年

| 主要疾患 | 入院数（年間） | 経験目標症例数（3年間） |
|------|---------|--------------|
| 肺癌 | 80 | 60 |
| 気胸 | 25 | 30 |
| 縦隔腫瘍 | 5 | 6 |
| 膿胸 | 8 | 8 |

| 手術 | 件数（年間） | 経験目標件数（3年間） |
|-------|--------|-------------|
| 開胸術 | 76 | 60 |
| 肺切除術 | 52 | 40 |
| 胸腔鏡手術 | 70 | 40 |

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 2 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 2 名

主として研修指導にあたる医師の氏名

上田 仁

〃

診療科経験年数

35 年

8. コンセプト

思い遣りをもった呼吸器外科医を育む。

診療に対する信念を持ち、医療の質を高める情熱をもった臨床医を育む。

9. 共通領域研修について

週 5 回(毎日)、放射線科医との胸部 X 線カンファレンス

週 1 回、関連診療科との症例カンファレンス

卒後 3 年目

卒後 4 年目

卒後 5 年目

| |
|------------|
| 呼吸器外科プログラム |
|------------|

【5年コース】

1. 診療科（専門領域）

呼吸器外科

2. コースの概要

呼吸器外科専門プログラムのすべて

3. 取得資格

国立病院機構による診療認定医(Ⅱ)資格

日本外科学会認定の外科専門医を取得する際の修練期間として申請可能

呼吸器外科専門医合同委員会認定の呼吸器外科専門医を取得する際の修練期間として申請可能

4. 長期目標

呼吸器外科学の専門的知識の習得。

呼吸器外科疾患の診断を的確に行い、適切な術式の選択、化学療法を含む治療法の選択を行い、遂行する。

5. 取得手技

気管支鏡、胸腔ドレナージ、気管切開
開胸術、肺切除術、胸腔鏡下手術

6. 研修期間

5年間

7. 募集人数

2名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 2012 年

| 主要疾患 | 入院数（年間） | 経験目標症例数（5 年間） |
|------|---------|---------------|
| 肺癌 | 80 | 100 |
| 気胸 | 25 | 40 |
| 縦隔腫瘍 | 5 | 8 |
| 膿胸 | 8 | 10 |
| | | |

| 手術 | 件数（年間） | 経験目標件数（5 年間） |
|-------|--------|--------------|
| 開胸術 | 76 | 100 |
| 肺切除術 | 52 | 50 |
| 胸腔鏡手術 | 70 | 50 |
| | | |

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 2 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 2 名

主として研修指導にあたる医師の氏名

上田 仁

〃

診療科経験年数

35

年

10. コンセプト

思い遣りをもった呼吸器外科医を育む。

診療に対する信念を持ち、医療の質を高める情熱をもった臨床医を育む。

11. 一般目標

患者の人権を尊重し、患者および患者家族との意志疎通を図る。

関連領域を含む幅広い知識の習得を心掛け、関連診療科とも協議し、適切な治療方針を立案する。

他の職種との意思疎通を図り、医療安全へ配慮する。

1 2. 関連領域の研修に関して

施設内での研修 可能

施設外との交流研修 可能

研修領域の決定

本人の意向を研修責任者が聴取し、本人との相談で決定

1 3. 共通領域研修について

週 5 回(毎日)、放射線科医との胸部 X 線カンファレンス

週 1 回、関連診療科との症例カンファレンス

卒後 3 年目

卒後 4 年目

卒後 5 年目

卒後 6 年目

卒後 7 年目

| |
|------------|
| 呼吸器外科プログラム |
|------------|